

～学校と地域でつくる学びの未来～

地域学校協働活動

School Home Community



地域と学校の関係は、地域が学校・子どもたちを「応援・支援」する一方向的な活動から、地域と学校がパートナーとして「連携・協働」する双方向型の活動へと変化しています。

光山小学校 放課後学習教室

近年、少子高齢化やグローバル化の進展などに伴い、教育環境や社会環境は大きく変化しています。学校においては、子どもを取り巻く問題が複雑化・困難化しており、学校だけではなく、地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えていくことが求められています。

また、子どもの成長を軸として、学校を核とした地域づくりを推進することにより、地域の将来を担う人材の育成を図ることや、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図ることも期待できます。

毛呂山町では令和元年度に、中学校区を単位として2つの学校運営協議会が設置され、地域住民の参画や連携を強化するコミュニティ・スクールのスタートしています。

令和3年度には、地域と学校をつなぐコーディネーターとして地域学校協働活動推進員を委嘱しました。「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」を実現するための取り組みを

実践しています。

今回の特集では、実際にゲストティーチャーとして地域学校協働活動に参加していただいている手話サークル「手の絆」代表の島根さんと、地域学校協働活動推進員の渋谷さん、そして学校現場としての立場から積極的に地域との協働を進めている川角中学校の前田教頭に、現状の取り組みや考え方について、お話を伺います。

問合せ 教育委員会生涯学習

課 学習支援係 ☎ 29512

112 内線522

文部科学省が推進する地域学校協働活動について、さらに詳しく知りたい人は、文部科学省ホームページをご覧ください。

School Home Community

学校と地域でつくる
学びの未来



地域学校協働活動



渋谷 辨洋 さん
SHIBUYA Benyo
地域学校協働活動推進員



島根 ちか子 さん
SHIMANE Chikako
手話サークル「手の絆」代表



前田 伸吾 さん
MAEDA Shingo
川角中学校 教頭

座談会 Member

先生の熱意が 授業のきっかけに

前田 川角中学校では、ゲストティーチャーとして手話サークル「手の絆」の皆さんに授業をしていただいておりますが、サークルの方の反応はいかがですか。

島根 初めは大変だから嫌だという声もありました。でも将来的に手話を広める道を作っていると思って、お互いのために引き受けようということになりました。

渋谷 学校はなぜ手話の授業をお願いしようと思ったのですか。

前田 毛呂山町で手話言語条例が制定されたことがきっかけの一つです。

島根 学校では昔から車いす体験などの福祉体験授業をやっていましたがよね。手話体験もぜひ取り入れてほしいと思っていました。

前田 こちらも公民館まつりで「手の絆」の皆さんの活動をを見て、授業に取り入れたいと考えていました。

渋谷 お互いのニーズが合ったのですね。

島根 最終的には教頭先生の熱意を感じ、協力したいと思いました。

子どもたちにとっても

地域にとってもプラスに

前田 生徒たちもゲストティーチャーの授業になると、普段の授業よりも積極的になるのを感じます。

渋谷 私も先日、川角中学校でゲストティーチャーをし

“子どもたちのほうから 声をかけてくれるようになりました”

ました。登校時の見守り活動の帰りに交通事故に遭い、その経験から、交通事故は誰の身にも起こり得る可能性があることや、人と人とのつながりなどについて話をしました。

前田 事故を起こしてしまった方が涙を流して何度も謝る姿を見て、この方も心に傷を負ったのだから、自分が元気になることでその方の心の支えにならないといけないという渋谷さんのお話に胸を打たれました。

渋谷 生徒たちが真剣な眼差しで私の話を聞いてくれたことが印象的でした。

島根 授業を通じて生徒たちから学ぶことがたくさん



ありますよね。また、度々学校に足を運ぶうちに、生徒たちが顔を覚えてくれて、あいさつをしてくれるんです。とても嬉しいですね。

渋谷 以前から知っている子で、あいさつを返してくれなかった子が、ゲストティーチャーの授業をきっかけに、あいさつをしてくれるようになりました。

島根 子どもたちの笑顔で私たちも元気になりますし、子どもたちにとっても地域の大人と話すきっかけになるので、お互いにとって嬉しいことですよね。

渋谷 学校内だけでなく、スパーなどで会ったときにも声を掛け合える関係にな



ゲストティーチャー 手話 (手話サークル「手の絆」)

地域学校協働活動



ゲストティーチャー 道徳 (渋谷辨洋さん)

れば、地域の潤滑油になっ
ていくのではないでしょ
うか。

特別なイベント ではなく日常に

前田 川角中学校では手話や
書き初めなどのゲストティ
ーチャーをお願いしていま
すが、手話などを押しつけ
ている訳ではありません。
地域の方々との出会いを通
して、色々な人がいて、お
互いを思いやる心を持って
ほしいなと思っています。
島根 そのためには手話の授
業が単に体験学習にならな
いことが大切です。

前田 そうなんです。手話を
やってみようではなくて、
その先にある目的や目標に
ついて生徒一人ひとりが考
えることが大切なんです。
渋谷 なぜ手話の授業なんだ
ろうということではなかつ
たのですか。

前田 手話の授業などが年に
一度の「特別なイベント」
になってしまうと、地域学
校協働活動は続かないと思
います。理想は学校内のコ
ミュニティームでサークル
活動をしている方と生徒
と一緒に活動したりするこ
とです。渋谷さんのような
地域の方と気軽に話せる場
や雰囲気づくりも大切だと
思います。
島根 どのサークルも高齢化
しているので、学校にそう
いう場があるといいですね。
**眠っている地域の
底力を掘り起こす**

渋谷 地域と学校をつなげる
ことが、私の役割なんです
ね。色々な特技をお持ちの
方や、子どもたちのために
なるならと考えてくださる
地域の方はたくさんいらっ



ゲストティーチャー 書初め(書道サークル「さくら」)

しゃいます。まずは私から
学校にどんだん顔を出して
いきたいと思っ
ます。

前田 すぐに成果
が出るような活
動ではないと思
います。ですが
小中学校での経
験をもとに、子
どもたちが将
来、町に帰って
きたり、町のた
めに何かをする
きっかけになる
のではないでし
ょうか。「地域が子どもた
ちを育て、子どもたちが地
域をつくる」この言葉に尽

“地域が子どもたちを育て 子どもたちが地域をつくる”

きると思います。地道な活
動が数珠つなぎ
になって、将来
の毛呂山町をつ
くるのかもしれ
ません。

島根 昔は近所に
どんな子が住ん
でいるか、みん
な知っていました
たし、大人から
気軽に声をかけ
てもらいました
よね。今はどんな子どもが
地域に住んでいるかも知ら
ないですし、声をかけては
いけないような雰囲気すら
あるように感じます。

“人と人をつなげる 接着剤になりたい”

思っています。お二人も仰
っていたように、子どもた
ちと一緒に何かがをし
たり、子どもたちの笑顔を
見たりすると、地域も元気
になると思うのです。

島根 本当にその通りです
ね。それに子どもたちも地
域の役に立つと、地域の
一員だという自覚も生まれ、
なんだか嬉しそうですよ。

渋谷 人と人や、地域と学校
をつなげる接着剤が必要な
んです。接着剤といつて
も強固なつながりではな
く、ゆるいつながりを作る
ことが、この活動を長く続
けるために大事なのかなと
気付きました。
本日はありがとうございました。

ゆるい関係づくりを

前田 学校の生徒も地域活動
を積極的に行ってほしいと



ゲストティーチャー 昔の暮らし体験
(歴史民俗資料館サポーター)



地域学校協働活動



川角中学校区

渋谷 辨洋 さん

子どもの笑顔は生きる力
地域で育む明るい学校



毛呂山中学校区

谷住 妙子 さん

学校に興味関心を持ってもらい、親しみと感謝の思いを繋げていきます。

地域学校協働活動推進員 を紹介します

地域と学校をつなぐコーディネーターの役割は必要不可欠です。地域と学校との連絡調整等を行うコーディネーターを「地域学校協働活動推進員」として、教育委員会が中学校区ごとに委嘱しています。

広まっています 地域学校協働活動

できる人が できるときに できることを
あなたにも無理なくできることがあるかもしれません

毛呂山町では、公民館サークルや資料館ボランティアなどをゲストティーチャーとして招き、授業を行っていただいているほか、下記のような地域学校協働活動に取り組んでいます。

▼ 放課後学習教室



放課後学習教室は、放課後に学校の余裕教室を活用し、児童の居場所と自主的な学びの場を提供する取組です。地域の方が宿題の見守りやドリルの補助指導・採点等を行っています。

▼ 除草、樹木剪定作業



地域学校協働活動推進員や民生委員の呼びかけで、地域の有志の方が学校の草刈りや枝の剪定をしてくださいました。

▼ 登下校の見守り



児童生徒たちの通学時の安全を守るために、通学路の危険な箇所りっに立哨しょうしていただいたり、付き添い登校してくださっています。



川角中学校区
学校運営協議会

毛呂山中学校区
学校運営協議会



コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)

学校運営協議会は、小中学校の運営に関し保護者および地域住民の参画を促進し、連携を強化することにより、相互の信頼を深め、一体となって学校運営の改善並びに児童生徒の健全育成に取り組むことを目的としています。

具体的には、年度当初に校長が掲げる学校経営方針の策定に対し、意見・助言および承認を行うこと、学校の運営状況等について評価を行うことにより、学校運営に参画する仕組みです。

毛呂山町では、中学校区を単位として学校運営協議会を組織し、小中一貫教育を支えています。